



放射線医学を含めた医学生物学研究において、モデル動物を用いた解析法の有用性は年々高まっています。2020年のノーベル化学賞を受賞し、広島大学でも卓越大学院プログラムや研究拠点を通じて早期からその開発・応用に力を入れてきた「ゲノム編集」技術の普及によって、その傾向は今後さらに強まることが予想されます。

放射線影響を研究する分野でも、放射線感受性遺伝子の解析や放射線影響に起因する各種病態モデルを作製する目的で、ゲノム編集技術の応用が進んでいます（J Rad Res, 2021）。私たちも、